

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：74306

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H04526

研究課題名(和文)古代中国の東北フロンティア開発と玄菟郡・楽浪郡

研究課題名(英文)Northeast Frontier Development of the Dynasties in Ancient China and Xuantu and Lelang Commanderies

研究代表者

田中 俊明(TANAKA, TOSHIAKI)

公益財団法人古代学協会・その他部局等・客員研究員

研究者番号：50183067

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,600,000円

研究成果の概要(和文)：文献・考古の両面から、古代中国における東北フロンティア開発の実態を把握する研究を進め、遼東郡・玄菟郡地域の現地踏査をした。成果として、わたしは「夫余の漢文化受容と遼東郡・玄菟郡」を発表し、燕の遼東郡進出の経緯と夫余との関わり、その後の夫余における漢文化受容の状況、それと玄菟郡との関わりについて整理した。共同研究者である徐光輝は「遼寧地方の集落考古学的研究」を発表した。彼は遼河の東西地域の遼東郡設置以前から設置後の考古学的状況を理解することをめざした。その他、研究協力者の論考も得て、論集をまとめることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

東北フロンティア開発拠点である皇城址を中心に調査を進めた。現実にはコロナ禍によって十分な調査をすることができなかったが、それでも現在の状況について確認することができ、保存をしなければ埋没することも提案した。現地の研究者と同行しており、現状が研究レベルで共有できたことは意義が大きい。また、そうしたフロンティア開発によってつける在地勢力のインパクトについても考察した。それは東北アジア諸民族の発展についての歴史的追究を進めたものであり、中国史の立場のみではなく、在地社会の動向をあわせ総体としての歴史が追究される基礎を築いたものといえる。その点での学問的寄与は大きいと考える。

研究成果の概要(英文)：From both literature and archeology, we proceeded with research to understand the actual situation of the Northeast frontier development in ancient China, and we conducted field surveys in the Liaodong and Xuantu districts. As a result, I published "Acceptance of Chinese Culture in Fuyu, and Liaodong, Xuantu Commanderies". I summarized the background of Yen state's settlement into the Liaodong region, its relationship with the Fuyu state, and the situation of the acceptance of Chinese culture in the Fuyu thereafter. My research collaborator KOKI JO published "Archaeology of Village in the Liaoning region". In addition, I was able to compile a collection of articles based on the articles of collaborators.

研究分野：人文学

キーワード：楽浪郡 玄菟郡 古代東北フロンティア 遼東郡 古代朝鮮 高句麗 夫余

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究はそもそも古代における中国諸王朝(戦国燕～後燕)の東北フロンティア開発の先端基地であった玄菟郡・楽浪郡の位置と変遷を、現地調査を踏まえて詳細に検討し、古代中国の開発のあとづけをする予定であった。2郡の県城は、現在の中国遼寧省・吉林省から北朝鮮を経て韓国におよぶ地域に分布していた。フロンティア開発をあとづけるためには、これら玄菟郡・楽浪郡の具体的な変遷を知らなければならないが、それには各県城の位置・立地・規模・構造・遺物の年代等の追究が不可欠になる。さらに県城と他の県城とを結ぶ交通路についても、あわせて知る必要があった。県城址の残り方の現状は、危惧すべきものであり、早急に現状を整理し、また位置等も確認して、情報の学界への提供および現地社会については保存などの方策を考えなければならない状況であった。

また、中国諸王朝の開発のありかたとともに、それに対する在地勢力としての夫餘・高句麗・濊・韓などによる抵抗・協調について考察することも目的としていた。これについては、中国正史、特に『魏志』東夷伝の精密な検討が必要であり、かつて公表した前半部分について、韓伝・倭人伝についても詳細な訳注を作成している。これは前半部分と合わせて、『魏志』東夷伝訳注として刊行する予定である。

該当地域の平地土城は耕地化・工場化など開発のためにしだいに消滅しつつあり、早急な調査が必要であり、それを中心にしつつ、並行して文献・考古による追究を進める必要がある。

2. 研究の目的

本研究はそもそも古代における中国諸王朝(戦国燕～後燕)の東北フロンティア開発の先端基地であった玄菟郡・楽浪郡の位置と変遷を、現地調査を踏まえて詳細に検討し、古代中国の開発のあとづけをする予定であった。2郡の県城は、現在の中国遼寧省・吉林省から北朝鮮を経て韓国におよぶ地域に分布していた。フロンティア開発をあとづけるためには、これら玄菟郡・楽浪郡の具体的な変遷を知らなければならないが、それには各県城の位置・立地・規模・構造・遺物の年代等の追究が不可欠になる。さらに県城と他の県城とを結ぶ交通路についても、あわせて知る必要があった。県城址の残り方の現状は、危惧すべきものであり、早急に現状を整理し、また位置等も確認して、情報の学界への提供および現地社会については保存などの方策を考えなければならない状況であった。

また、中国諸王朝の開発のありかたとともに、それに対する在地勢力としての夫餘・高句麗・濊・韓などによる抵抗・協調について考察することも目的としていた。これについては、中国正史、特に『魏志』東夷伝の精密な検討が必要であり、かつて公表した前半部分について、韓伝・倭人伝についても詳細な訳注を作成している。これは前半部分と合わせて、『魏志』東夷伝訳注として刊行する予定である。

該当地域の平地土城は耕地化・工場化など開発のためにしだいに消滅しつつあり、早急な調査が必要であり、それを中心にしつつ、並行して文献・考古による追究を進める必要がある。

3. 研究の方法

現地の研究者も同行するかたちで、現在残る諸県城址や交通路を調査する。その際には、一般には入手しがたい文献の入手や情報を入手することを並行して進める。現地調査はメンバー同時にすすめることとし、現地での討議も行う。いっぽう文献的には普段に中国正史東夷伝や朝鮮側の歴史書、考古学的成果を入手に分析することをすすめる。それらを総合して、目的に迫る。

4. 研究成果

現地調査はまず、普蘭店市博物館・普蘭店の姜屯墓群・張店城址・瓦房店の陳屯墓群・陳屯城址・熊岳の熊岳西墓群・熊岳古城、蓋州の光栄村漢墓・蓋州城東壁・鞍山市博物館・鞍山の旧堡遺址遠望・

羊草庄漢墓、遼陽市博物館・遼陽の亮甲遺跡、新開河の孫城城址、遼寧省博物館など。これらは遼東郡の西南部地域に該当する。遼東郡は、課題である玄菟郡と密接に関わる地域で、紀元後 106 年頃とみられる第 3 玄菟郡への移動は、遼東郡との改編を含むものである。従って、特にその東部地域には目を配る必要がある。ここではそれよりも南の地域であったが、県城と推定される、または可能性の高い土城を 4 カ所調査することができ、現状を把握できた。また鞍山市博物館においては、清代の碑文ながら、遼東郡の 1 県である「居就県」と彫られた石碑を実見し、位置推定に新たな知見を得ることができた。現地でのみ得られる情報は貴重である。また遼東半島にあったはずの文(満)県の位置推定にもこの調査は有効であり、それは戦国燕の進出地域を限定する根拠ともなるものである。

その後、遼東郡・玄菟郡関連で桓仁下古城子古城、東古城子遺跡、通化赤柏松古城、永陵鎮古城・邱台遺跡、瀋陽青粧子古城、東洲小甲邦古城、撫順労働公園古城、点々とする烽火台については新賓四道溝烽火台・木奇東嶺烽火台・新民烽火台・天橋嶺烽火台を調査した。また、高句麗遺跡としては、撫順高爾山城・桓仁五女山城・桓仁上古城子墓群・望江楼墓群・望波嶺関隘・集安(西大塚・集安高句麗碑発見地点・長川一号墳・牟頭婁塚・將軍塚・広開土王碑・太王陵・東台子遺跡周辺・五塊墳一帯・国内城・丸都山城・山城下墓群・山城下磚廠古墳・千秋塚)、遺物の調査は、鉄嶺市博物館・遼寧省博物館・桓仁博物館・集安博物館で行い、未公開の桓仁民俗博物館も参観した。これで残っていた遼寧省東部・吉林省西南部の遼東郡・玄菟郡関連遺跡は、ほぼ調査することができ、また高句麗の前期・中期遺跡についても、かなり多く見ることができた。

その後は、コロナ禍によって国内の遺跡等の調査を進めるのみであった。九州北部・瀬戸内海地方であり、海上交易・『魏志』倭人伝と関わるころ、また遣唐使・遣新羅使のルートに関わる遺跡を調査した。楽浪の影響、あるいは伝達ルートの確認をめざしたものである。

また滋賀県の観峰館において楽浪郡ネン蝉県神祠碑拓本を調査し内容を紀要に発表した。

中国・韓国の研究協力者を招請して討論会を開く予定でいたが実現しなかった。ただ、研究報告として準備していた論考を、『古代文化』誌に特輯として掲載することとし、田中の「夫余の漢文化受容と遼東郡・玄菟郡」、研究協力者の東潮の「遼東の帯金具」、同じく井上直樹の「北朝鮮における楽浪郡研究」を 73 巻 1 号に、分担者の徐光輝の「遼寧地方の集落考古学研究」、協力者の鄭仁盛「考古学からみた衛滿朝鮮の王陔城」を同 2 号に分載した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 田中俊明	4. 巻 17
2. 論文標題 観峰館所蔵朝鮮古碑拓本解説（一）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 観峰館紀要	6. 最初と最後の頁 6-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中俊明	4. 巻 5
2. 論文標題 楽浪と「東夷」世界 三世紀にいたる秘められた水脈	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岩波講座世界歴史	6. 最初と最後の頁 249-266
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中俊明	4. 巻 73-1
2. 論文標題 夫余の漢文化受容と遼東郡・玄菟郡	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代文化	6. 最初と最後の頁 59-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上直樹	4. 巻 73-1
2. 論文標題 北朝鮮における楽浪郡研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代文化	6. 最初と最後の頁 91 - 106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徐光輝	4. 巻 73-2
2. 論文標題 遼寧地方の集落考古学研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代文化	6. 最初と最後の頁 59 - 72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鄭仁盛	4. 巻 73-2
2. 論文標題 考古学からみた衛滿朝鮮の王陵城	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代文化	6. 最初と最後の頁 73 - 89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 田中俊明
2. 発表標題 『日本書紀』の「任那」
3. 学会等名 加耶史復元のための国際学術大会『加耶史の空間的範囲』(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中俊明
2. 発表標題 文献史料からみた金官加耶と倭との関係
3. 学会等名 加耶服飾復元事業研究用役第1次国際学術セミナー『金官加耶服飾と対外交流』(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	徐 光輝 (Xi Guanghui) (70278498)	龍谷大学・国際学部・教授 (34316)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	井上 直樹 (INOUE NAOKI)		
研究 協力者	東 潮 (AZUMA USHIO)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------